

No	11	分類	2-(2)-ア	資料名	このままやったら	学年	5・6年	領域	道徳	4-(2)
----	----	----	---------	-----	----------	----	------	----	----	-------

1 ねらい

- いじめは相手の心や体を傷つけ、許すことのできない人権侵害であることを理解し、いじめをなくすためにどうすればいいかを考え行動する力を高める。

2 趣旨

- いじめはどのような社会にあっても絶対に許されないこと、また、いじめをはやし立てたり、傍観したりする行為もいじめる行為と同様に許されないということを徹底させることが必要であり、身近な人権侵害であるいじめを、自分の問題としてとらえ行動しようとする意識をもたせる。
- いじめられた経験をもつ「ぼく」が、低学年の子が同級生にいじめられている場面に出会ったときの心の葛藤を共感的に理解させ、正しい行動は何か、自分ならどのような行動をとることができるかを考えさせる。
- 自分たちの生活のなかに、似たような状況がないかを振り返り、自分がどのような立場にいるのか、どのような行動をとっているのかを見つめさせる契機とする。

3 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 「ぼく」の気持ちを考える。 どうして「ぼく」は視線をそらし、その場を離れたのでしょうか。 ・怖かったから。 ・自分もいじめられるかもしれないから。 ・いじめを止められないと思ったから。 ・また、いじめられるのがいやだから。 家に向かっているとき、「ぼく」はどんなことを考えているでしょう。 ・あの子が助けてほしいと待っている。 ・助けないといけない。 ・つらく悲しい思いをしているだろうな。 ・ぼくには関係ない。 ・あの子がいやだと言ってがんばればいいんだ。	・いじめられた経験を思い出し、かかわりたくないぼくの気持ちを理解させたい。 ・かつてぼくがいじめられたとき、だれも助けてくれなかったことをおさえておく。 ・いじめはいけないことだとは分かっているが、それをやめさせようという勇気がでてこないぼくの気持ちをつかませる。 ・自分もいじめられるかもしれないからと、自分を納得させようとしている心情を理解させる。
2 このあと、「ぼく」にできることを考える。 「ぼく」にはどんなことができますか。 ・もう一度公園にもどって、いじめをやめさせる。 ・他の友だちを呼んできて一緒に止める。 ・先生や大人の人の助けを呼ぶ。	・「このままでいいのか」と問いかけることで、いじめを許しておくわけにはいかないことをおさえる。 ・どのような行動がとれるのかを考えることで、いじめをなくす行動となることを具体的に考えさせる。
3 今の自分の生活で似たようなことがないか振り返る。	・自分の生活を振り返らせ、「いじめ」が重大な人権侵害であることを理解させ、勇気をもって行動しようとする意識をもたせる。 ・誰か一人の勇気ある言動がいじめを解決することにつながることをあることを認識させたい。